

2022年7月～9月活動報告

天塩町地域おこし協力隊 野口 裕康

活動の方針と見通し

7月から9月にかけては、教育に関連する分野の活動に力を入れた。屋外で行う任務の機会も増え、夏の限られた期間でのみ体験できる天塩の夕景のすばらしさを体感できた。本州でしか暮らしたことのなかった自身にとって、この高緯度地域で非常に長い時間見られるトワイライト景観は、活用の仕方次第では観光客が町を訪れたいと思う魅力的なコンテンツになり得ると実感した。

また本年10月より、情報処理安全確保支援士（登録番号第024689号）として登録され、デジタル技術を活用した観光コンテンツづくりや情報教育分野での業務に携わりやすくなると考えている。まずは10月中旬に行われる町のPRイベント時に、モニタをデジタルサイネージ（ネットワーク型）として活用するため、コンテンツ表示の制御部分（STBおよびCMS）とコンテンツ自体の制作を行う。

活動記録

1 令和4年度高大連携教育（天塩高校・筑波大学）のサポート

筑波大学大学院の研究室の方々が天塩町を訪れ、天塩高校第2学年の生徒とともにまちの課題や振興について考える高大連携ワークショップが8月27～29日に行われ、そのサポートおよび活動の様子の記録を行った。本年度は、「アカエゾマツのアロマオイル」「ふるさと納税の体験型返礼品」についての発表グループがともに1位となった。



▲高大連携ワークショップ（8月26日）



▲高大連携シンポジウム（8月27日）

2 啓徳小学校での授業等のサポート

(1) 夏休み学習支援

夏休み期間中に啓徳小学校で複数日にわたって行われた自由参加型の授業に、学習支援のため参加した。国語や算数などの教科の宿題やドリルを教材として、わからない点の指導や採点を行った。授業時間の後半は生徒とともに体育館で運動を行い、なかでも「ボッチャ」は自身にとって初めての体験となった。

(2) 啓徳小×神戸大 総合学習授業

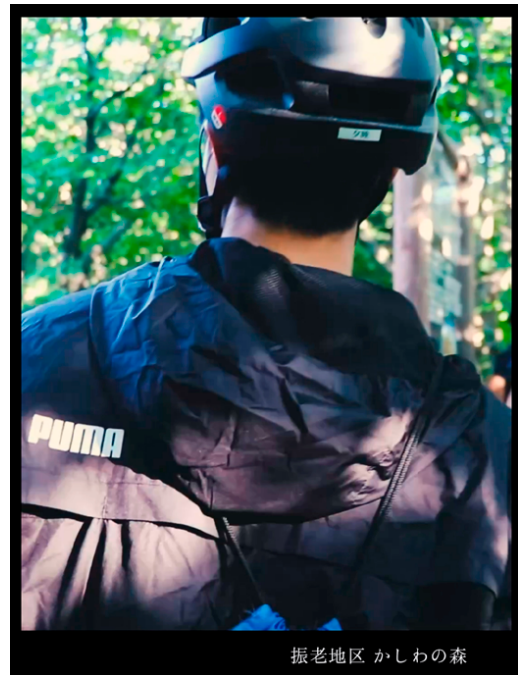
5月に初回授業が始まった、神戸大学の研究室とオンラインで地域の魅力について学ぶ総合学習授業の最終回が7月7日に行われた。研究室の教授および学生に対し、啓徳小の生徒がスライドを用いてプレゼンテーションを行った。自身が写真等の資料提供を行った「天塩の夕日・トワイライトについて」のグループの発表の質疑応答では、神戸大の学生から「（トワイライトが見られる）時間は何時頃か」といった内容の質問があり、天塩町のような高緯度地域の夕景の特異性は、特に道外在住者の興味をひくものであるとあらためて感じた。

3 高校生ボランティアによる夕日自転車ツアー

昨年度の高大連携ワークショップ・シンポジウムで発表されたアイデアである、「高校生ボランティアガイドによる天塩町の夕日をめぐる自転車ツアー」の体験が実際に行われ、その際に記録および今後の情報発信に用いるための映像撮影を行った。撮影した映像データは関係者に提供したほか、15秒のプロモーション動画を2バージョン制作し、協力隊の公式Instagram上でリール動画として公開した。



▲「高校生ガイド、原野へ飛び出す」篇



▲「高校生ガイド、ツアーデビュー」篇

4 テシオ川エクササイズ（天塩川河川公園）の撮影

7月の毎週火曜夜に天塩川河川公園で行われた「テシオ川エクササイズ」の撮影を行った。全4回のうち1回は曇りとなったが、残りはすべて日本海に沈む夕日を背景に撮影することができた。撮影した映像は今後のイベント告知や町のPRを目的に、編集したうえで公開する予定である。



▲7月26日「ストレッチーズ」回の撮影風景

5 観光PR用天塩町紹介パネルデザイン

おもに道外での観光関連イベントでの利用を想定した、天塩町の紹介パネル・ポスターのデザインを行った。10月に神戸で行う町のPRイベント時に、道外（天塩から地理的に遠い地域）在住の方々に向けて、「天塩町とはどのような場所なのか」を観光の観点から紹介する目的で制作したが、既に行われた他の地域でのイベント時にも掲示された。記載内容を正確なものにするため、文章については町の担当者と確認をとりながら制作した。



▲紹介パネルのイメージ

6 高校前バス停リノベーション作業の開始

以前より計画していた、天塩高校前のバス停の内装を改修し交流促進や教育に活用するプロジェクトにおいて、実際に9月より協力隊の三國隊員、町内の方々と作業を進めている。壁・床・天井の施工に際し専門技術が必要な作業は町内の方々にご協力いただけたため、協力隊は主に安全性に大きな影響が出ない部分（細部の塗装・待合所内設備の活用・学生と連携したスペースづくり）等の作業を進めていく。



▲改装進行中の風除室の壁



▲改装進行中の待合室の壁

7 天塩國狂言公演当日の運営業務

本年の初めから計画・準備を進めてきた、万作の会による「天塩國狂言」が7月4日、天塩中学校体育館の特設能舞台で開催され、公演前日から当日にかけて会場設営や案内業務を行った。地域の方々と協力して一つの大きなイベントに携わることができた経験は、今後地域で別のプロジェクトを行う際に非常に参考になると感じたと同時に、地域に深く関わって初めて知ることのできる慣習といったものにも触れることができた。

8 大ほっかいどう祭での地域産品販売業務

8月6～7日に札幌ドームで開催された、道内外の自治体の特産品販売やPRを行うイベント「大ほっかいどう祭」に天塩町グループのスタッフとして参加し、商品搬入・販売ブース設営・販売時の商品説明等に従事した。

9 メディア記事等

東京の幸坂さん執筆、協力隊の野口さんが公開

「天塩の夕日」テーマ 論文を動画で紹介

【天塩町地域おこし協力隊員の野口裕康さん35】が、天塩の夕日をテーマにした論文を説明する動画を作り、動画投稿サイト「ユーチューブ」で公開している。天塩は高緯度のため、夏至には、夕日のトワイライト（薄明）が「世界三夕日」の一つとされるインドネシア・バリ島の約4倍の122分間見ることができるとなどを映像で分かりやすく紹介している。（田中雅章）

論文は、東京在住の会社員幸坂麻琴さん25が昨年、筑波大学院生の時に執筆した。論文のタイトルは夕日・トワイライト景観を活かしている都市構造の活用。昨年度の地理情報システム学会の大会優秀発表賞に輝いた。幸坂さんは今年3月、サビース学位プログラムを修了した。3年前、天塩高と筑波大の高大連携事業で天塩を訪れた際、夕日の美しさに感動。観光客誘致やまちおこ

しにつなげたいと考え、研究に着手した。動画は1分48秒。幸坂さんの指導教官で、同大システム情報系の大沢義明教授が、論文の内容を広く伝える手段として動画の作成・投稿を提案した。野口さんは情報システム関係の仕事をした経験があり、幸坂さんとオンラインで2回やりとりし、ドローンによる上空からの映像も交えて1週間にわたって動画を完成させた。

動画では、天塩が夕日・トワイライトを長く広角度で見ることができたり、中心市街地が沿岸部にあり、道路形状が格好状で、高層建築物がなく、市街地のいろいろな場所から夕景を見ることができるとを説明している。

野口さんは「数字データをとろとろと動画にするのが難しかった。映像作成中に他地域と比較する中で、天塩の夕日が美しいことがわかった。幸坂さんは視覚的に表現するのが難しかった研究成果を分かりやすくタイミニックに映像化してもらえた」と話す。

動画投稿から4カ月が過ぎ、約400回視聴されている。野口さんは「天塩は、市街地から夕日が日本一美しくみえると言っても過言ではない。多くの人に天塩に来て夕日・トワイライトを言ってもらえれば」と話している。

天塩の夕日・トワイライトに関する論文の内容を動画にした野口裕康さん

美しさ 分かりやすく

▲北海道新聞 R4.09.17

天塩のすてき発見！ 神戸大生らにPR

啓徳小の児童 オンラインで

【天塩】町内の啓徳小（佐藤美智子校長、10人）と神戸大をオンラインで結ぶ授業「雄信内・天塩のすてき発見！」が7日、最終回の25回目を迎え、児童たちが天塩の魅力について発表した。総合的学習の一環で、これまでに合同のオンライン授業を2回、同小だけの授業を2回実施。この日は同小3、6年の7人と学習テーマの調査などで協力した町地域おこし協力隊の三國秀美さん、野口裕康さん、同大経済学部の橋野知子教授（日本経

済史）と同教授のゼミ生13人が参加した。児童たちはそれぞれ、天塩の魅力として紹介したい「しみみラーメン」「トワイライトと夕日」「牛乳」など6テーマについて発表。「マスカットサイダー」を紹介した5年の長田佳子さん（10）は「天塩の魅力がうまく伝えられた。これからも天塩について調べたい」と笑顔で話した。授業の最後に橋野教授は「何かを知りたいと思う気持ちをお忘れずに勉強を続けて」と呼びかけた。授業は同小の佐藤校長と橋野教授が栃木の高校時代の同級生だった縁で実現した。（田中雅章）

▲北海道新聞 R4.07.08

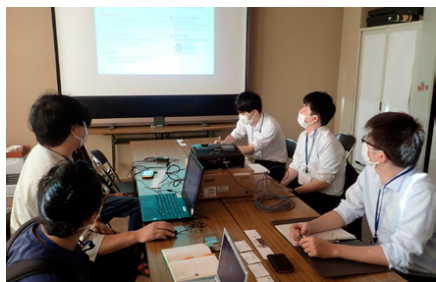
10 セミナー参加・その他の活動

(1) 留萌地域ツーリズム勉強会（8月23日 増毛町）

増毛町内のサイクルツーリズム推進のサイクルマップに関する意見交換、カラーユニバーサルデザインに関する講義（北海道カラーユニバーサルデザイン機構 北名理事による）が行われた。特にカラーユニバーサルデザインについては、自身の活動領域と大いに関係があり、また後日、より詳細な技術的資料を紹介していただくことができた。今後ポスターや案内板、Web サイト制作時に意識すべき事項だと考えている。

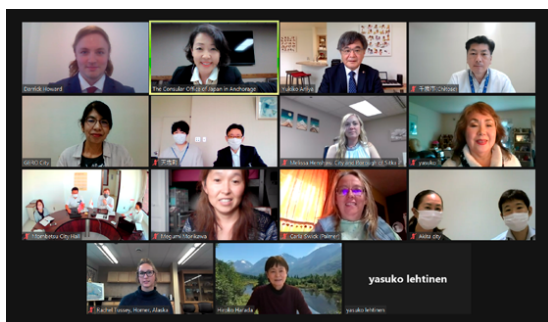
(2) 北海道留萌振興局職員体験研修（9月27日 天塩町役場）

留萌振興局の若手職員の方々と地域の活動について意見交換を行った。



(3) 姉妹都市オンライン会議（9月30日 天塩町役場）

天塩町の姉妹都市であるアラスカ・ホーマー市および、アラスカと日本で姉妹都市関係にある自治体に参加する定例会議「Japan - Alaska Sister City Forum Meeting」に参加し、今後天塩町とホーマー市との間で主に教育分野で連携を行っていくことを確認した。



(4) 開発こうほう 10月号への寄稿

北海道開発協会が発行する広報誌「開発こうほう」への寄稿を行った。広報誌のオンライン版は北海道開発協会 Web サイト上で公開されている。

(5) 北海道銀行での映像放映（9月20日～10月21日）

昨年度に応募した「受け継ぎたい北海道の食」動画コンテスト優秀賞を受賞した、天塩町ウブシ原野の暮らしの中で生まれ受け継がれてきた食をテーマとした作品「開拓汁」が、北海道銀行各店舗で上記の期間行われている。